

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・生活科や総合的な学習の時間では、地域や岐阜市の人・もの・ことを主体的・探求的に学び、生き方指導に結ぶ授業改善を図る。 ・朝活に話し合い活動を位置づけ、聞く・話す力を育てる。 ・ICT機器を有効活用し、子ども主体の学びとなる授業改善を図る。	B	・6年生では、総合的な学習の時間の年間カリキュラムを見直し、生き方指導へつなげた。終末場面では、下学年に学びを伝える活動を仕組み、学びの連続性を図った。 ・朝活の話し合い活動は、学級内の取組にとどまった。 ・ICT機器の活用を工夫し、学びや活動に活かすことができた。	・生活科や総合的な学習の時間の「まとめ・発表」において、子どもたちが身に付けた力が分かる参観機会があるとよい。 ・話し合い活動では、話題や目的を明確にし、全員が参加できるよう工夫を期待する。 ・英語の学習では、ALTの英語に触れ、意欲的に学ぶ姿が見られた。	・どの学年においても、総合的な学習の時間の年間カリキュラムを見直し、主体的・探求的に学び、生き方指導に結ぶ授業改善を図る。 ・話す力・聞く力をさらに伸ばすために、指導部が中心となり全校的に取り組む。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地域と学校、PTAとの連携を図り、地域のよさを生かした豊かな活動や学習を仕組む。保護者に教育活動への参画を促す。 ・幼保小連携会議や保育指導を学ぶ職員研修を通して、就学児のギャップ解消につなげる。	A	・2年生生活科の町探検では、21名の保護者ボランティアの協力を得て、児童の豊かな学びにつながった。 ・小学校職員の保育現場体験や保育士の授業参観など、相互の職員研修を行った。 ・子ども同士の交流では、就学児のギャップ解消に向け、小学校の生活を体験する機会を設けた。	・夢づくりふれあい事業では、開催時期の変更や防災テーマとした新たな取組が地域連携の向上に寄与した。 ・他園との交流や情報共有をさらに進めてほしい。 ・保育士と教員が互いの現場を見学し、理解を深め、共通認識がもてるとうい。	・引き続き、保護者ボランティアを募り、人材確保を図る。 ・職員同士の交流機会を確保する。子ども同士の交流では、就学児のギャップ解消につながる内容を充実させる。 ・連携の一つとして、隣接する保育園と合同で「命を守る訓練」を実施することを検討する。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・職員同士の親和性や同僚性を発揮し、風通しのよい職場作りに努める。ベテラン教員は日常的に若手教員を育て、双方のやりがいにつなぐ。 ・研修主事が中心となって、職員の研修ニーズをつかみ、校内研修を計画的に行う。	A	・ベテラン教員が若手教員をリードし、学年経営や校務分掌の業務を円滑に進めることができた。 ・若手研修の機会を設け、ニーズに応じて互いに学び合う環境をつくることできた。また、日常的に職員が相談し合う姿が見られ、学び合いにつながっている。	・ベテラン教員の支えにより、若手教員も子どもたちにとってもよい学習環境が整っている。 ・教員のなり手が少ない現状がある。教員の質を担保するためにも、日頃から研修は必要である。 ・学年ごとの教員の組み合わせやチーム力がとてもよい。	・引き続き、職員の親和性や同僚性を発揮できるよう、職場環境を整える。 ・研修主事が中心に研修ニーズを把握し、計画的に校内研修を進めていく。若手研修は継続する。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	・人権教育を核として、全職員が生命の尊厳の大切さにこだわって指導したり、児童会が取組を発信したりして、児童の思いやりの心の醸成に努める。 ・個々の課題に寄り添い、安心して学べる支援体制を整える。	A	・「いじめを見逃さない日」のペープサートによる劇や「ふわふわ言葉キャンペーン」など、児童会の取組をさらに充実させ、児童一人一人が自分事として考える姿勢の育成に努めた。 ・登校渋りや不登校、問題行動などについて、背景を見極めながら、チームで対応することができた。	・児童会の取組を充実させ、今後も継続してほしい。 ・ケース会などを通じて、具体的事例の共有やアフターケアなどの研修を進めてほしい。 ・個人情報の扱いやデジタルタトゥーなど、ICT機器との付き合い方を継続して指導してほしい。	・引き続き、児童会の取組を充実させ、児童一人一人が自分事として考え行動できる力につなげる。 ・生徒指導交流やケース会を通して情報を共有し、チームで対応する。 ・ICT機器の適切な扱い方について児童が学ぶ機会を設けるとともに、保護者への啓発も積極的に行う。
災害、事故に対する安全性の確保	・様々な危険に対する実践的な訓練を年間通じて行い、危機回避能力を高める。煙体験など具体的な体験や専門家の指導を仰ぐ機会を設定する。 ・危機管理マニュアルの定期的な確認や具体的事案からの学びを通して、職員の危機管理意識を高める。	A	・地域行事の中に、煙体験や起震車体験などのリアルな体験を組み込み、児童の危機意識の向上につなげた。 ・職員向けの不審者対応訓練を行い、児童の命を守るための具体的な動きや考え方を専門家から学ぶことができた。 ・打合せ等で具体的事案を共有し、職員の危機管理意識の向上を図った。	・予測不可能な事件・事故が多い中、児童の自分の命は自分で守る意識をより高めてほしい。 ・危機管理マニュアルの確認を継続し、教職員が状況判断できるよう定期的に研修を進めてほしい。 ・保育園の緊急避難場所が小学校であり、地域の重要な場所となっている。	・児童と職員が合同で不審者対応訓練を実施し、職員の、児童の安全を守る意識を高める機会とする。 ・児童の安全確保のため、職員の声を生かして管理体制を工夫・改善する。まず、職員の勤務時間を前倒しする。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・全職員による毎月の環境点検を確実にし、校外外と連携して必要箇所の即時対応に努める。 ・事務職員を中心として、職員の声を反映させ、計画的に備品や消耗品を整備する。	A	・施設の安全点検結果を基に、必要な箇所への即時対応に努めた。市への修繕要望は、約60%の案件が達成された。 ・職員からの意見を集め、計画的に備品や消耗品の整備を進めた。 ・施設監査を機に、教育環境の安全性を見直し、必要に応じて再整備を行った。	・学校施設の老朽化が進んでいる。毎月の安全点検や校舎巡回により早期発見に努めてほしい。 ・地域の人々が気付いたことを外部からでも伝え合えるような地域づくりを進めたい。	・引き続き、全職員による毎月の環境点検を行い、安心・安全な教育活動の整備に努める。 ・施設の老朽化に伴い修繕箇所は年々増えているため、優先順位をつけて計画的に市へ要望する。